

精神医学・公衆衛生学合同公開セミナー

# 保健医療行政における医師の仕事 ～精神保健医療行政の今後～

厚生労働省 社会・援護局障害保健福祉部 精神・障害保健課長  
**北島 智子 先生**

日時：2013年12月14日（土）15時30分～16時30分  
場所：医学部臨床第二講堂

本年7月より、これまでの新潟県副知事より厚生労働省 精神・障害保健課長に就任された日本大学医学部59回生（1986年卒業）で公衆衛生学分野の兼任講師でもある北島智子先生をお招きしました。

北島先生は、国の中央で種々の医療政策を手がけ、地方自治体でそれらを推進実現化してこられました。今回、行政での医師の役割、その大切さやおもしろさ、今後の精神保健行政についてなどについてお話し下さいます。皆様のご参加を歓迎いたします。

日本大学医学部精神医学系 内山 真  
日本大学医学部公衆衛生学分野 大井田 隆  
日本大学医学部精神神経科学教室同窓会 長瀬 輝誼

## 新潟県 副知事

●自治体勤務の経験から  
私の地方自治体勤務歴ですが、埼玉県庁を皮切りに、埼玉県大宮保健所、山梨県健康増進課長、青森県健康福祉部次長、青森県健康福祉部長を経て、今年4月に新潟県副知事に就任しました。青森県の部長までを通過すると自治体勤務は7年7カ月ほどになります。

将来に希望を  
持てるような地域  
づくりをしていきたい



この間、埼玉県では富士見産婦人科病院の訴訟、山梨県ではオウム真理教問題などもあり、思わぬ経験をすることになりました。また、乳児死亡率が高かった青森県で、医師不足の中、総合周産期母子医療センターの立ち上げに携わったことも思い出深い仕事です。

それぞれの自治体でやり甲斐のある仕事や頼れる仲間に出合えたことに感謝するとともに、都道府県の業務、予算、議会対応などを課長、部長といった立場で担当することができたことは、国の行政を担当する上でも貴重な経験となっています。近年では直接的な住民サービスが市町村に移っているものの、都道府県でも直接住民に接する機会が多いので、行政対策

やサービスの善し悪しによって、住民からの反応が直接得られるのが醍醐味です。

新潟県では保健、医療、福祉以外に、環境、労働、教育等のほか、危機管理も担当することになりました。我が国は、未曾有の大震災によってすっかり元気を失ってしまいましたが、このままでは日本の再起がますます遠くなってしまいます。皆が元気を取り戻し、将来に希望を持てるような地域づくりを推進していきたいと思っています。

### ●着任直後のとある一日

連日、朝から知事室で震災対策の会議。その前に新聞6紙に目を通す。県庁の机の上には

新潟県副知事

## 北島 智子 KITAJIMA TOMOKO

昭和63年 入省（保健医療局疾病対策課結核・感染症対策室 主査：予防接種対策、肝炎対策、集団訴訟等）  
平成6年 山梨県厚生部健康増進課長  
日本住血吸虫病の安全宣言  
平成9年 児童家庭局母子保健課 課長補佐  
生殖補助医療、母乳のダイオキシン等  
青森県健康福祉部長：総合周産期母子医療センター設置、医師確保対策  
平成14年 医政局指導課医療計画推進指導官  
医療計画の見直し  
平成16年 医政局総務課医療安全推進室長  
医療安全対策の見直し、医療関連死モデル案の立ち上げ  
平成17年 医薬食品局食品安全部基準審査課  
新開発食品保健対策室長特定保健用食品の新認可、アグリクス問題  
平成20年 国立国際医療センター国際医療協力  
国立高度医療センターの独立行政法人化、  
国際保健医療協力の企画調整  
平成23年 現職  
座右の銘：座右の銘というほどのものではありませんが、「平常心」という言葉が好きです。行政に長く携わっていると、難しい局面に直面することもあります。どんな時でも感情にとらわれず、素直な心で冷静に対処できるようにしたいものです。

報告事項や記者発表資料が山積み。これにも急いで目を通す。会議終了後、領事館等への挨拶回り。帰庁後、担当部局からのレクが1件。その後、知事を囲んで昼食。午後は新聞社、大学関係者等への挨拶回り。帰って来ると再び資料の山に遭遇。着任直後の仕事は、挨拶回りと大量の資料を速読しいち早く地域の実情把握をすることでした。

新潟県副知事時代の北島先生 厚生労働省ホームページより

連絡先：精神医学系医局 内線 2431 または 2430 内山 まで